

TRYしてみました!

“job job”プログラム

渋谷区立鉢山中学校の“job job”プログラム

■ “job job”プログラムとの出会い



仙北屋正樹先生
中学生のうちに夢を育てて…

仙北屋先生は、鉢山中学校に8年前に赴任し、7年前から4日間の職場体験を行いました。その頃、他の学校の職場体験は1、2日間というのが一般的でした。仙北屋先生が職場体験を4日間としたのは、ある受け入れ先の担当者から、「働く苦勞」を体験させるには4日間は必要だ」と言われたことにあります。せっかくの職場体験を“お客さん体験”だけに終わらせず、働くことのないへんさを実感できる場にしたいとこだわったことでした。その4日間の職場体験を実現させるための課題は、生徒を受け入れてくれる職場です。“働く苦勞”を体験させるには受け入れ側にも相当の負担が掛かります。生徒たちの希望と合わせながら、受け入れ先を探している中で、後に“job job”に取り組む株式会社ソシオエンジン・アソシエイツと出会うことになりました。この出会いがきっかけになり、仙北屋先生は、“job job”の企画段階からかかわることになり、鉢山中学校で“job job”プログラムが実施されることにつながっていったのです。

仙北屋先生のキャリア教育への熱心さが“job job”との出会いを導いたといえるでしょう。

■ “job job”を取り入れたキャリア教育のプログラム

仙北屋先生は、事前事後学習の重要性について次のように語ります。「職場体験をその場限りの体験で終わらせないためには、事前事後学習をしっかりと行うことです。鉢山中学校では、事前学習で日本社会の経済の状況について学習し、事後学習で“job job”作成を行います。この一連のプログラムを実施するようになって、生徒たちは職業について真剣に深く考えるようになり、3年生の進路決定のときに自分の希望が明確に持てるようになってきました。実際に職場体験のときの職場がそのまま職業につながった生徒も出てきてます」

生徒を受け入れる側はもちろん、生徒も学校もそれぞれが苦勞をして実現する職場体験授業を、より深めるための事前事後学習を“job job”プログラムは、フリーペーパーづくりによって、一連の流れとして実施することができます。

■ “job job”プログラムの成果

まずは生徒にとって…。「わたしは、国語の担当なのですが、生徒たちは作文がうまくなりました。また、職場体験先等でのインタビューでは、後に“job job”に掲載することを考えるので、質問を深く考えるようになりました。また、“job job”はプロの編集者にかかわってもらいながら作成するので、読み手に魅力的に記事が伝わり、次学年の職場体験への意欲に繋がります」つまり、読み手に、何を、どのように伝えたいかを意識しながら一連のプログラムを実施していくので、自ずと「コミュニケーション能力」が鍛えられるようです。

地域への学校の宣伝としても効果が高いということも成果の一つです。2,000部発行されるので、近隣の小学校や校庭で行われる地域のバザー等で配布されています。地域の方から、「今年も作ったんだね」と声をかけられたそうです。

さらに、外部の人たちと協力をして授業を進めるというやり方に学校が慣れたということも成果の一つのようです。「学校は閉鎖的なところだ

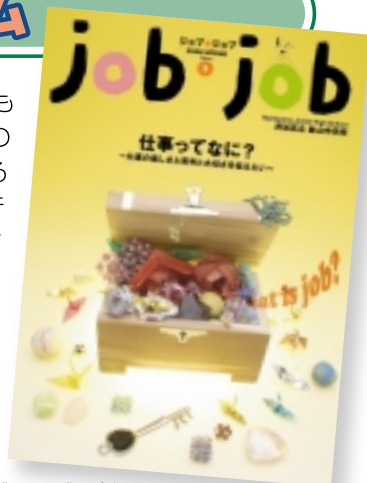
外部の人が学校内に入ってくることに当初は抵抗感がありました。しかし、“job job”プログラムを実施するうちに、外部の人は自分たちができない専門的なことをやってくれるという信頼感が生まれてきました。外部の人に協力を求めるというのに慣れてきたのだと思います」

■ 中学生のキャリア教育の大切さ

中学生のキャリア教育が重要だという理由は先生は二つあげています。

「一つには、中学生はまだ夢を持っています。高校生になると現実がはっきりと見えてくるので“働くことへの意義付け”としては遅いのではないかと思います。中学生のうちに夢を労働意欲に繋げたいのです。ですから、職場体験は生徒一人ひとりを第一希望のところへ行かせます。夢を育ててもらうためです。二つ目は、中学生くらいのときに労働意欲を育てておくことは、今後の社会にとって非常に大切なことだと考えるからです。日本人の労働意欲が下がっている中で、日本は海外の労働者に頼るようになっていっています。この先を考えると日本の社会全体が元気がなくなるように思えます。中学生の段階で働くことに興味を持ってもらい、将来的に社会を支える、盛り上げる一員となってほしいのです」

仙北屋先生は、キャリア教育には将来の日本経済の行く末がかかっているということ、教職員は認識し、前向きに考えていかなければならないと感じています。



“job job”の表紙。
生徒が手作りの宝箱



冊子のデザインについてプロから教えてもらいます